
言語研究センター共同研究グループ経過報告

音響機器等を利用した音声教材の試作

小松 雅彦／松村 文芳

近年、技術的な発達によって、さまざまな音声分析のための機器が従来に比べて廉価で利用できるようになってきているが、音声教育への応用は限られている。申請者らは、2013～2014年度に「音響機器等を利用した英語音声教育のための予備的調査」を行い、いくつかの技術についての利用可能性の調査検討を行った。本研究プロジェクトでは、それらの技術を用いた教材の試作に着手する予定である。現在、以下のことを行っている。

(1) 前年度に採取した NDI Wave Speech Research System のデータの分析準備、および他の

データベースとの比較検討。

(2) ストリーミングサーバを利用した英語音声のディクテーション演習システムのプロトタイプ作成準備。

(3) 「英語リズム学習における強勢タイミング提示のための視聴覚教材」(甲南大学北村達也研究室)の試用の準備。

(4) 中国語 CALL システムの使用経験から、英語の音声教育との関連・応用についての検討。CALL システムにおける波形表示に与える声調の役割の考察。